

はぐくむ光のびる若芽

169

宝米 久保田由美

我が家は一人息子、それもとびっきりの箱入り息子である。(小三です)

巷では、バタフライナイフが飛び交い、世紀末の様相だというのに、息子は温室の中で又クヌクと肥え育ち、今日では家の中心で君臨している始末だ。

「ウチのお坊っちゃま、ヨソのガキ」とはよくいったものだが、最近では「うちのお坊っちゃまもタダのガキ」になった。というのも、この春から「栄光の野球部」の一員となったからである。鬼の監督にしろかれ、先輩を師匠と崇め、グラウンドを這い、血と汗にまみれ、悔しさにぞっと涙する——とは冗談だが、男同士の汗くさくさい世界に彼も飛立ってしまった。

「一人っ子だから」といつか負、共働きたかり」といつか負目、よつなもので、いろいろ思っている中で、

色々な試行錯誤、人様にはみせられない親子バトル……を続けてきた。

「子供と同じ目線で」と教育学者の権威がたまったので、中腰でついて回っていたら筋肉痛でダウン。

「生命の大切さ、一匹の虫にも命が……」と柄にもなく訓示を垂れるその側で「キブリが出現、ゴキジェット」

世の中は、子育て、教育について本気で心配しているとは思えない。雑音が多すぎる。痒い所に手が届かないくせに、痒くもない所に手ばかりか足まで出してくる。

だからこそ自分の子どもくらいは自分の目で見て、自分の手で殴り

トで一発噴射、更に八エタタキでとどめをさした母を、彼は冷たい視線で見ている。

「責任ある過干渉が今の教育には必要。」——何だコレ、この味噌汁、しょっぱいから砂糖を入れる、と

「子供をたくさん産めば金を出す、(中略)子育て

は女の仕事だ」(某眞議会での議員発言)——この発言にムカッ腹をたて、皿の一枚でも投げたろか！と思えば「子育ては本来、楽しいもの、母性のあらわれです。」と悪魔の聲が耳許で囁く。

自分の言葉で叱りたい。

「バカヤロー」と叫ぶ親に「しょうもない親だな」とため息でもついてくれ。もう、君には君の「クンガキの世界」があるのだから。



自分の言葉で叱りたい

自分の言葉で叱りたい。

「バカヤロー」と叫ぶ親に「しょうもない親だな」とため息でもついてくれ。もう、君には君の「クンガキの世界」があるのだから。

自分の言葉で叱りたい。

「バカヤロー」と叫ぶ親に「しょうもない親だな」とため息でもついてくれ。もう、君には君の「クンガキの世界」があるのだから。

自分の言葉で叱りたい。

「バカヤロー」と叫ぶ親に「しょうもない親だな」とため息でもついてくれ。もう、君には君の「クンガキの世界」があるのだから。

自分の言葉で叱りたい。

「バカヤロー」と叫ぶ親に「しょうもない親だな」とため息でもついてくれ。もう、君には君の「クンガキの世界」があるのだから。

自分の言葉で叱りたい。

「バカヤロー」と叫ぶ親に「しょうもない親だな」とため息でもついてくれ。もう、君には君の「クンガキの世界」があるのだから。

自分の言葉で叱りたい。

「バカヤロー」と叫ぶ親に「しょうもない親だな」とため息でもついてくれ。もう、君には君の「クンガキの世界」があるのだから。

は女の仕事だ」(某眞議会での議員発言)——この発言にムカッ腹をたて、皿の一枚でも投げたろか！と思えば「子育ては本来、楽しいもの、母性のあらわれです。」と悪魔の聲が耳許で囁く。

保健婦メモ

シリーズ② 今月の顔



森 正夫さん (78歳) (橋 場)

何も入れず飲むようにしています。堅いものを食べることで歯ぐきを緊張させ、歯槽膿漏もありませんでした。

◎ラジオで情報収集・趣味は、おしゃべり

◎堅いものをよく噛んで繊維質の多い食品をとる

森さんは、今でも自分の歯で鶏の骨(手羽等)や魚の骨(さんま等)をよく噛みくだくなど堅いものを好んで食べています。また、野菜は好きで繊維質の多いものをよく食べるようにしています。好き嫌いはなく、何でもよく噛んで食べています。

◎60歳まで32本保つ

人の歯は親知らずを入れると32本になりますが、森さんは60歳まで32本を保っていました。歯の治療は、歯が欠けた時に受診した位で歯痛は全く経験ありません。歯みがきは1日1回就寝前に行い、食後はお茶を飲み、コーヒー、紅茶には、

丈夫な歯を保つことは、食べることに話すことの意識につながり生活全体に張りが出てくると感じました。これからも「人の為に骨を折ること」を目標にしたいと話す森さんの笑顔がとても素敵でした。

家内労働旬間

期間 5月21日(休)～31日(日)
労働法についての相談は、最寄りの労働基準監督署へ